

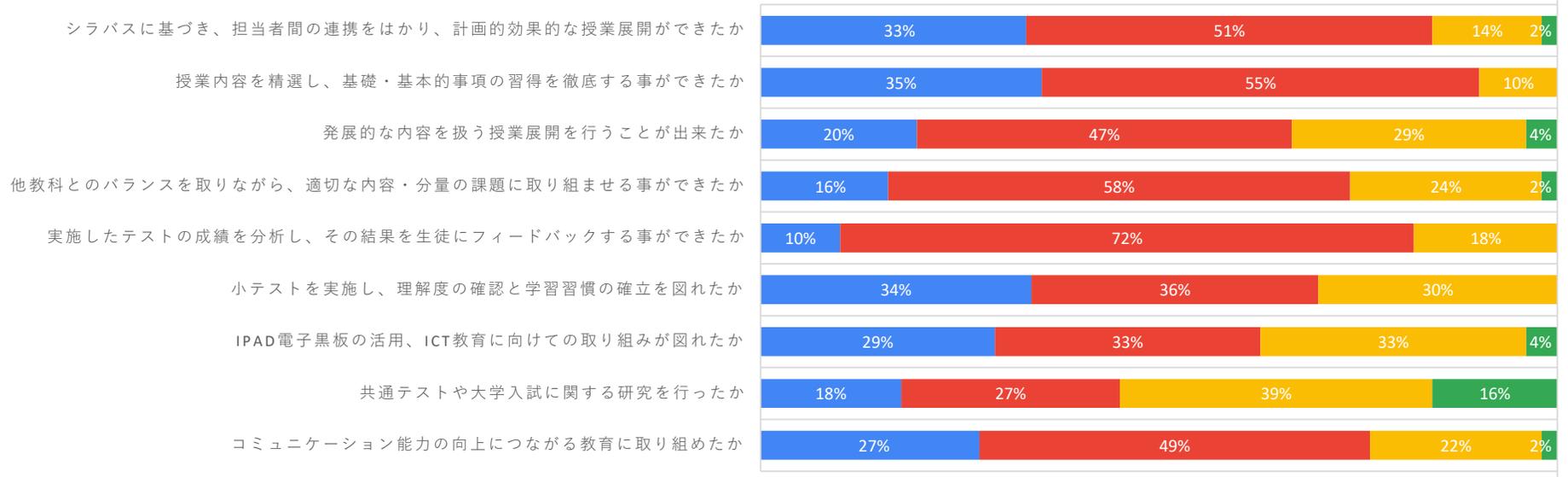
令和5(2023)年度 三田松聖高等学校・学校評価シート

学校 教育 目標	＜基本方針＞	
	校訓「不撓不屈、和敬協調、自律自学」の信念のもと、心身を錬磨し、優れた英知と豊かな情操を備えた、清く正しく強い、社会貢献のできる青少年を育成する。	
	1.	「知・徳・体」の調和のとれた人格形成と育成を図り、生徒が生き生き・伸び伸びと活動する活発な学校づくりを推進する。
	2.	個に応じた教育活動を展開し、基礎・基本を確実に定着させ、生徒自ら主体的に判断し行動できる資質や能力の向上を推進する。
	3.	家庭や地域との密接な連携を図ることにより、社会から信頼される学校、魅力ある学校づくりを推進する。

重 点 目 標	＜学校経営の重点＞	
	「教育は人なり」である。生徒に「生きる力と学ぶ力」を身につけさせるため、熱意ある教育実践と真摯なる研修を積み重ねる教師集団づくりを図り、生徒との信頼関係を構築し、学校のさらなる発展を目指す。	
	1.	教員とその組織の充実 ・教員の資質及び指導力向上 ・校務分掌の組織編成と役割分担の適正化 ・教員のコンプライアンス強化
	2.	学習環境と教育内容の充実 ・個別最適化指導の取り組み ・ICT教育の推進・情報教室の整備推進 ・能動型学習法の推進 ・図書室を有効活用し、生徒の学習意欲向上の推進
	3.	進路の充実 ・高大接続による「大学入試制度改革」への対策と検討 ・生徒の目標達成の支援 ・特別進学・大学進学コースでの「学力向上講座」の実施 ・進路実現に向けた「自己発見プログラム」の推進 ・短大・高校・幼稚園の学園連携である保育者育成プロジェクト「保育探究クラス」の推進
	4.	部活動の充実 ・強化指定部の活性化 ・各部の活性化 ・挨拶やマナーの向上、帰属意識の高揚、人間関係の構築、人格形成

学習指導に関する自己評価

■よくできた ■だいたいできた ■あまりできなかった ■全くできなかった



次年度への課題と改善策

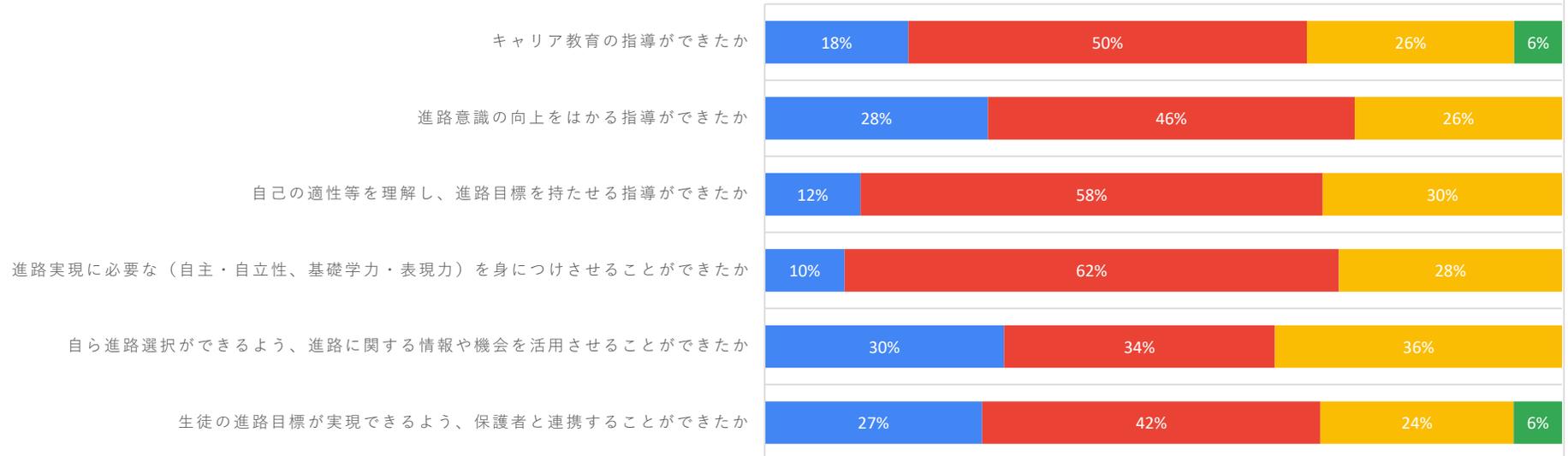
- ・基礎を徹底的に繰り返す取り組みを学校全体で進めていく。
- ・授業で得た知識を応用・入試につなげていく。
- ・iPadを活用してアクティブラーニングに取り組む。
- ・一人一台端末を活用した授業力を高め、組織的な授業改善を図る。
- ・主体的に学ぶ生徒の育成に努めていく。
- ・指導と評価の一体化が図れる指導の充実。
- ・生徒がわかる授業を目指し、教員間の情報共有、研修など積極的に行う。
- ・多様な生徒達に対して個別最適な授業を実施できるよう、教員の資質向上に努める。

学校関係者評価

- ・対面してのコミュニケーションが少なくなってきたが、社会生活では重要であるため、コミュニケーション能力の育成に努めてほしい。
- ・生徒個々へのきめ細かい対応はなされており、更なる教員自身の資質の向上に努めていただき生徒の卒業まで支えていただきたい。
- ・iPad活用など、ICT化についての工夫はなされているので、続けてほしい。

進路指導に関する自己評価

■よくできた ■だいたいできた ■あまりできなかった ■全くできなかった



次年度への課題と改善策

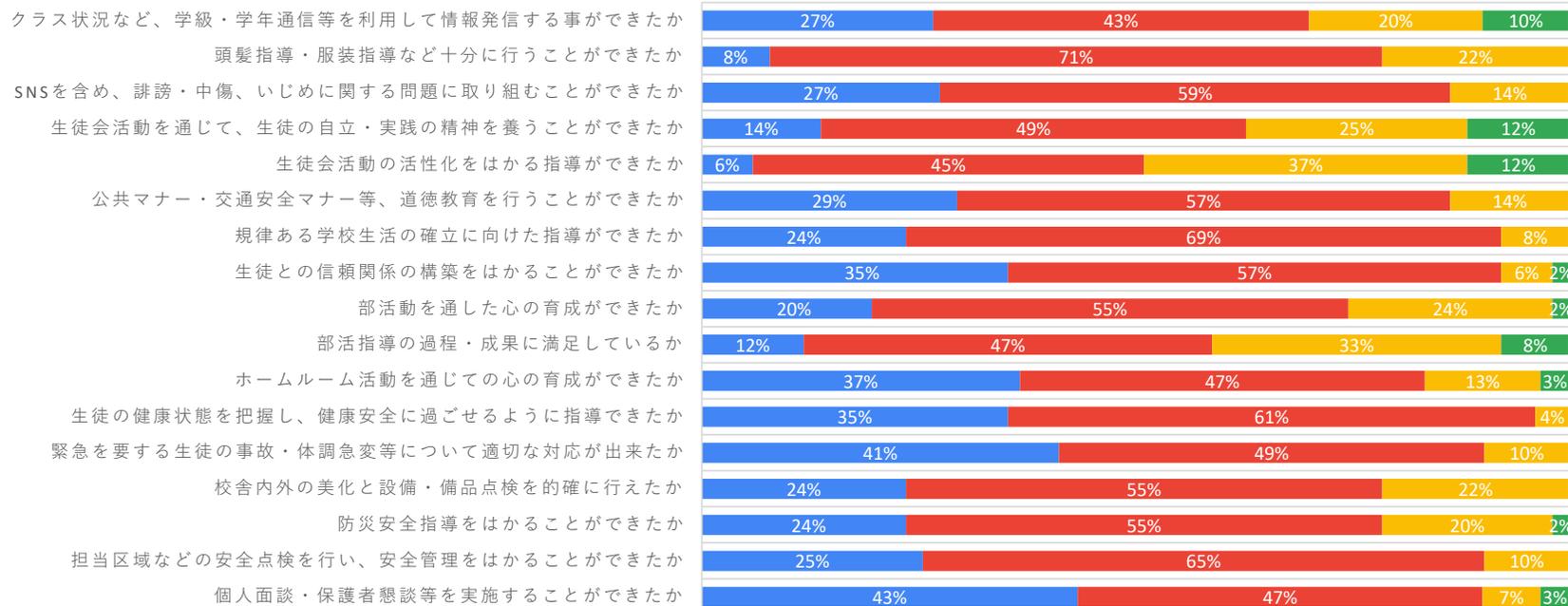
- ・早い段階での進路目標設定を促し、生徒自身が現状を把握し目標までの距離を確かめることで受験への学習意欲につなげる指導を行う。
- ・生徒・保護者へ情報を発信し、保護者を交えて将来を見据えた進路選択を行える機会を増やすなど工夫し、家庭との連携を図る。
- ・講座や体験をとおして、進学意識や意義を理解し主体的に進路を選択決定する意志・意欲を培っていく。
- ・指定校推薦に頼らない主体的な進路実現を目指す生徒を増やしていく。
- ・大学入試問題を研究・分析し、教科指導力の向上を目指す。
- ・生徒一人ひとりの進路を定期的・多角的に捉え、分析し指導に生かしていきたい。

学校関係者評価

- ・進路目標について、具体的な説明を行い、生徒の選択肢を広め、将来様々な面でプラスになるように導いてほしい。
- ・目標を立てて受験に挑戦する過程で自信もつき、将来に大きな影響を与えるためチャレンジする生徒を増やしてほしい。
- ・卒業生の状況を把握することで、生徒支援が一層充実すると感じる。

生徒指導に関連する自己評価

■よくできた ■だいたいできた ■あまりできなかった ■全くできなかった



次年度への課題と改善策

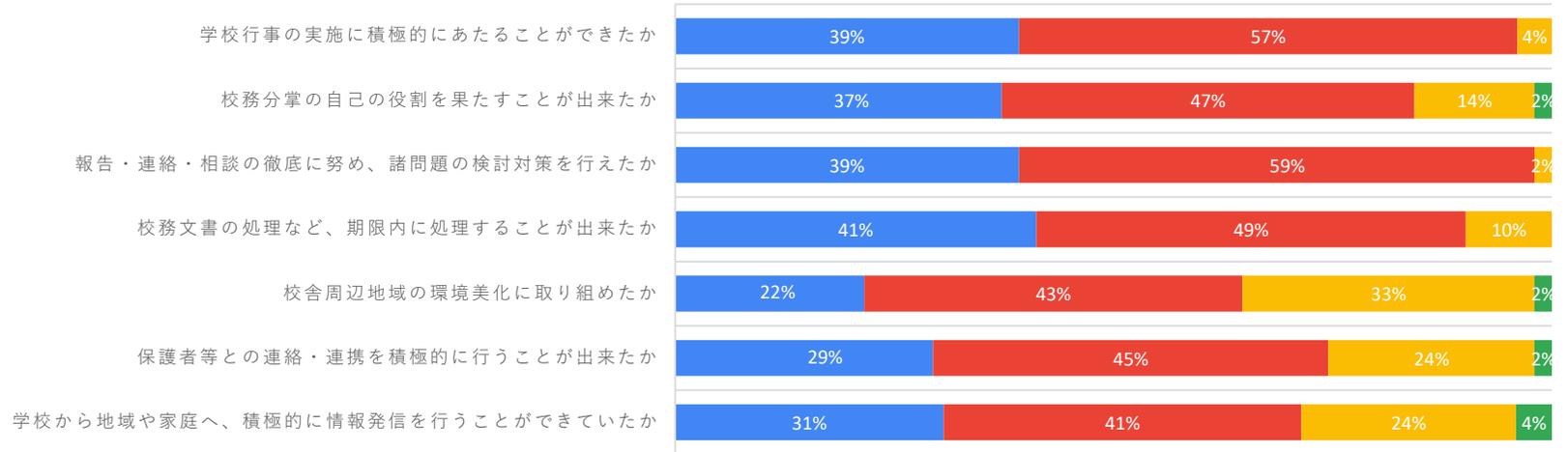
- ・教師間で指導がぶれないよう、生徒の実態や指導方針を確認・共有し学校全体で取り組む。
- ・ホームルームや学校行事の中で生徒が主体的に取り組む機会を設定し、自律性や学校への帰属意識を高めていく。
- ・校則やルール遵守、基本的な生活習慣を身につける指導をし、社会で通用する人材の育成を目指す。
- ・教員の資質向上を図るための研修会を適宜行い、時代の変化と新たな社会環境に即した指導をしていく。
- ・三者面談や情報発信などを通して保護者とのコミュニケーションを工夫し、保護者の協力を得ることで生徒指導を効果的に進める。
- ・時と場合に応じた適切な言葉使いは人間関係構築の基本であることを伝えていく。
- ・生徒に寄り添った柔軟な働きかけを徹底し、生徒と信頼関係を築く。

学校関係者評価

- ・様々な地域から通学しており、豊かな人間性が育める貴重な環境である。
- ・部活動が活発に行われており、地域の方々に応援されている。
- ・一部の生徒の近隣の振舞い、通学マナーが学校の印象になってしまっている。これを払拭するよう、引き続き指導をお願いしたい。
- ・来校時には、生徒の挨拶が気持ちがいい。

総務的なことに関する自己評価

■よくできた ■だいたいできた ■あまりできなかった ■全くできなかった



次年度への課題と改善策

- ・行事での業務配分の偏りを感じる。
- ・デジタル化、ペーパーレス化を推進し、会議の効率的運営を進め、働き方改革につなげる。
- ・教職員間の情報共有を徹底させる。
- ・生徒・保護者連絡のツールは確保できたが、地域に対しても正確で迅速な情報伝達の手段を確保する必要がある。
- ・ボランティア活動や地域貢献活動に参加できる声掛けとボランティアに関する情報を積極的に生徒へ提供し、参加を促す。
- ・自己発見プログラムで地域活動を展開し、成果を校外で発表し地域と関わる機会を増やしていく。
- ・部活動、生徒会等で生徒が積極的に地域活動に参画する。

学校関係者評価

- ・学校周辺での地域活動により、本校に対する理解が深まるため、積極的に清掃活動等を行っていく必要がある。
- ・後援会組織がきちんと運営されているので、後援会から地域へ情報発信いただくことで、広い地域の方々に本校を知ってもらえると思う。
- ・教員の働き方改革を推進していただき、生徒の教育にも良い影響として還元してほしい。